

平成29年度事業報告書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

特定非営利活動法人 長崎のぞみ会

1 事業の成果

平成29年度より責任者が交代し、新たな職員体制で事業に臨んだ。これまでと大きく異なることは、作業療法士というリハビリ専門職が主体となり、利用者への支援を進めていったことである。作業療法士の専門性の一つに、障害や病状の理解や個々の特性とその取り巻く環境を把握することで、それぞれのニーズに合った具体性のある支援を行えることが挙げられる。のぞみ共同作業所では、様々な病気を抱えた利用者が混在しており、ニーズもさまざまである。例えば、就労継続支援の事業所が上手くいかず、復帰を視野に入れた自己調整のために通う利用者や、退院直後に生活リズムを整えるために通う利用者、日中の居場所として仲間づくりや交流の場を目的に通う利用者などである。今年度は、このような一人一人の利用者に対し個別に支援計画を立て、定期的な面談を交えた支援を心がけた。

また、ボランティアの導入も積極的に行った。特に大学生が主体となり、日々の活動へ参加した。このことは、大学生にとって普段あまりかかわることができない障害や病気を知る機会になり、社会に出る前の大事な経験につながる。そして、大学生の新しい視点からのアイデアが商品製作に生かされ、利用者にとっても日常活動への良い刺激になり活気が生まれた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (千円)
精神障害者知的障害者、高次機能障害者、アルコール中毒者とその家族の福祉に関する事業	知的障害者等による、ピアノ、歌などの演奏会を病院のロビーコンサートとして実施する。	(A) 6月27日、7月12日、7月25日 9月19日、10月24日、3月6日、 3月13日 (B) 長崎リハビリテーション病院・市民病院・北病院・出口病院・長崎大学病院・聖フランシスコ病院 (C) 15名	(D) 市民 (E) 600名	0
地域活動支援センターのぞみ共同作業所を受託運営する事業、その他の施設等を運営する事業	利用者に対し創作的活動又は生産活動の機会の提供及び社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の供与を行う。	(A) 毎週 日・月・火・水・木曜日、 10:00~16:00 (B) のぞみ共同作業所 (C) 4名	(D) 地域活動支援センターⅢ型 対象者39名 年間利用者 (E) 2,306名	8,289